

9月号

第356号

いっしん

平成26年(2014年)

み教えを
かがみと己が
うつつしてぞ見む 姿をば
夜ごと日ごとに

甘本親教会
初代親先生み教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

教祖様ご生誕200年 少年少女全国大会



「まごころ運動」平和の折鶴
鶴つなぎを
されるみなさん(8/4)



代表3名が南九州梯団で行進(8/10)

「まごころ運動」ご協力
ありがとうございました。

平和の折鶴 1050羽
古切手 1013枚
古カード 39枚
集まりました。

「わかば祭」に供えられ
世界の恵まれない子ども
たちのために役立てられます。

教祖様ご生誕二百年少年少女全国大会
に八月九日(土)午後から十一日(月)に
かけてマイクロバスで参拝させていただ
く予定でしたが、台風十一号が九州・中国
地方へ接近し、激しい風雨が予報され、同
行する乳幼児の健康や、高齢のご家族を
残して行く方のごなどを考え、苦渋の決
断でしたが中止としました。

しかし、八月五日(火)からすでに「年
代別キャンプ」に参加している、高校生と
OBの女性二人は、蒜山(ひるぜん)でのキ
ャンプで「疲れた上に大きな荷物がさらに
増えて、新幹線で帰れる状態ではない！」
と訴えてきました。

そのため、急きよ九日の夜に「年代別キ
ャンプ」参加の二人の荷物を積めるだけの
車を準備して、夜行で迎えに行きました。
途中、仮眠を取りながら九日の午後九時
半に出発し、真夜中の高速道路をラジオの
台風情報に耳を傾けながら走り、翌十日の
午前九時頃に、ご霊地に到着することがで
きました。

やはり、台風で貸し切りバスが運行でき
なくなり、「かがやけ大行進」で演奏行進
できない教会もありました。

そのような中「かがやけ大行進」では
「南九州教区」梯団で、南九州から何とか
参拝できた教会のみなさんと並んで、教会
を代表して行進させていただきました。

教祖様ご生誕200年少年少女全国大会…P1 「青年のひろば」講話…P4~6
年代別キャンプに参加させていただいて…P2~3 教会行事…P8

年代別キャンプに

参加させていただいて

その①

矢野芳恵 (高三)



た。六人中五人が年下で、同級生は一人もいませんでした。自分が最上級生だったため班長となりました。

開会式が終わり出発の準備をし、皆で昼ご飯を食べてバスに乗って「蒜山」(ひるぜん 岡山・真部の真鏡川ある山で国立公園)のキャンプ場へと向かいました。

小学四年生の頃からお道(金光教)のキャンプに参加し続け、学生最後のアドベンチャーキャンプ(高校生年代の)にも参加させていただきました。

八月五日の出発の時点から、台風が接近していて心配でしたが、バスも新幹線も運行し、途中で他の教会の参加者と合流してご本部まで行かせていただきました。

今年のアドベンチャーキャンプ参加者は女子三人、男子三人という過去最少の活動となりました。少人数かつ初めての班長になり、不安ばかりでした。

少人数で物足りないような気もしましたが、少人数だからこそリーダーとも隊員とも絆が深まったのではないかと思います。

☆

アドベンチャーキャンプ、三泊四日間のテーマは「つながる」でした。

▼一日目 目標「お道に繋がる」▲

アドベンチャーキャンプ開始の朝、本部教庁で受付をし、開会式が始まりました。

女子はおとなしい子が多かったのですが、男子が盛り上げてくれて、リーダーと隊長を誘ってバスの中ではシリトリをして少しずつ交流を深めました。

キャンプ場はとても虫が多く、常に虫除けをふらないといけないほどでした。

キャンプ場に置いて、みんなで流れ作業で四日分の資材、荷物を降ろし、設営(テント建て)に取り掛かりました。

「班長の指示に従うように」とリーダーからの指示があり、もつ何をどうすればいいかわからない状況でした。私物を無くしたり、指示もうまく出来ず、リーダーにかなり支えてもらうこともありました。

また班員も自分で仕事を探してしてくれる子ばかりで助かりました。小学生の頃からキャンプをしているのに何も分からず自分が勉強不足、準備不足であったと感じました。

何とか設営も終わりの夜ご飯の準備に取り掛かりました。

「豚肉と野菜のみそアルミ焼き」が仕上がり、余った食材をどう使うか自分達で考え、限りある時間の中、野菜炒めも出来上がりました。初めての六人の自炊で時間はギリギリでしたが、やっと皆がまとまってきたような気もしました。

▼二日目 目標「自然と繋がる」▲

メインの活動である登山の日が来ました。本当ならば二日かけて上蒜山・中蒜山・下蒜山の三つ山を登りきる予定でしたが、天候が心配されていたため一日で、上蒜山と中蒜山の二つの山を登ることになりました。

リーダーからは「リタイアする人も出るかもしれない」と言われていましたが、班員は「皆で頂上で写真を撮ろうー!」と目標をもつてのぞみました。

長袖長ズボン、手袋、帽子、ステッキ、リュックサックに水分、着替えを入れ、登山入口までまず歩きました。入口まで歩くのもやっとでした。山に入ってから、段々だんだん斜面が急になり、最初の三合目ぐらいでリタイアしたくなることもありました。

休憩を五分ほど合間合間に入れてもらい、休憩を取るとかなり楽になりましたがまたそこから息を切らしながら登っていました。皆と話す余裕もなくなっただひたすら足と手を動かしていました。

途中で次長が遅れていて、班長の仕事は皆の体調管理の確認も必要だと思いい、皆に気を配りながら、登らせていただきます。頂上に近づくとつれて、眺めもとても良くなり、景色の良さに元気をいただきました。

やっと頂上に着いて、狭いスペースではありましたが、登山食であるドライフーズ(お湯を沸かして入れ食べるご飯)をお昼ご飯にいただき、休憩しました。上蒜山の頂上で隊歌を六回ほど歌い気合を入れ、下りました。上りもキツかったですが、下りは斜面の急な坂を爪先に全体重をかけて下らなければいけないため、また別のキツさがありました。足の爪が割れるのでないかと思うほど痛くなることもありました。高い石が階段状になっていて、腰を低くして自分のペースでゆっくり下りました。

下った所でまた今度は中蒜山に向かって登りました。皆ペースはバラバラになりました。頂上に向かって歩き続けました。

中蒜山の頂上に着く頃には体も慣れきて、初めて山小屋というものに入りました。本当ならばそこで一泊するはずでし



たが、急遽日帰りになったのでその小屋で着替えだけさせていただきました。もし、天候が良ければトイシもお風呂も水道も無い、その山小屋に寝泊りしなければならぬと考えると、天候が悪くてよかったですと内心思いました。

中蒜山から下山しました。二時間程度かかり道という道もなく、大自然の中、足場の良い所を自分達で探して下山していくような形でした。滑りやすい土や石が多くその際には左右に生えてる木を掴みながら下っていき、初めて木に感謝しなければいけないと思いました。ゴールの見えない下山で、もう終わりがなと思ってもまだ続いていて、トトロのような違う世界にいるような気になることもありました。

やっとゴールしたときは、足はガクガクで椅子に座れるだけでもありがたいと思えました。今まで体験したこと無いほどの汗をかいていました。

何よりも嬉しかったのは班員全員がリタイアせずに登りきったことでした。そして、いつの間にか心の壁も無くなっていました。

疲れが取れるよう温泉に連れていってもらい、そこからキャンプ場に戻りBQの準備に取りかかっていたところに、そんなことをする場合でもないような大雨になっていました。

テントの中にまで雨水が浸水していたため、リーダーから「撤営してご本部に避難する」と指示がありました。

切っていた野菜、洗っておいた米、全て袋にまとめ避難の準備をしました。

雨は止まず、雷もひどくなってくる中荷物を皆で積みました。

カップを着ながらサイトの片付けをし、温泉に入ったのに、全身ビショビショになった男子をみて、自分達のために尽くしてくれて、感謝感激でした。

大雨の中、ご本部へと避難しました。最後のキャンプなのに、自分達のサイトで一泊しか出来なかったのは残念でしたが、でもこのような大雨の中のリーダーの対処法など学べることも沢山あり、忘れられないキャンプになったと思いました。

また、一日の目標である「自然と繋がることができる」に近い近づいていたのではと思います。

ご本部の宿舎に泊まらせてもらって、三日目を迎えました。次号につづく

鹿児島地方教会連合会主催

「青年の広場」での講話

講師

平成二十六年六月十四日

金光教小林教会在籍

中村清一先生（三十五歳）



講題

『ステップ・バイ・ステップ』②

▼教師になってから

小林教会に帰ってから「青年会をしなければ」という思いはありましたが、実行が伴いませんでした。それを打破してくれたのは、姉でした。姉は、高校で擁護教諭をしており、保健室に勤めていました。

高校生が毎日のように保健室に来て「両親の仲が悪い」とか「離婚する」とか「親が不倫している」とか話し、姉はそういう問題を聴いているうちに抱えきれなくなると、家の母のところに毎日のように電話をし

てきました。

相談し、お取次ぎを頂くようなことになり、高校生の相談に対処し取り組んで行きました。

その姉が「子どもたちの問題は、家庭の中から生まれてきているのだから、教会での育成活動、少年少女会や青年会などの取り組みをしなければならぬ」と言うのです。

それでやっと重い体が動いたので

坪井教会（お母様のお里で学生時代の下宿先）の先生や、父や母に、青年会の対象者やご縁のある人がいるのかを聞きますと、坪井教会は二十人ほど、小林教会は三十人ほどありました。



しかし、信心の継承が十分にできてなく、教会から足の遠のきかけているという状況でした。

若い人の名前などを聞いて、親の方たちに誘っていいかを尋ね、許可の出た人たちに呼びかけ、青年会を始めました。

毎月定例会を開き、年に一回は坪井教会と小林教会合同でキャンプに行くように計画し毎年行かせてもらっています。

キャンプには、未信奉者の友達を誘って良いことにしていますので、ありがたいことに十人前後の参加者があります。

青年会が実際に動き出すと、最初は六・七人でしたが、だんだんと少なくなってきました。

しかし、私一人ということにはなりません。不思議と予想もしない人が思いがけず来られることになるなど、誰かがきてくれました。

もちろん、御祈念もさせてもらいましたが、願いや祈りをかけられていることを感じました。

神様の働きとしかいいようのないタイミングというようなものが積み

重なうて行くことを感じました。

そのような中で「青年会通信」というものを発行して、み教えと、ふだん私自身が感じていることなどを文章にして掲載し、青年会での話題などにして行きました。

その「青年会通信」にキャンプの日程や、私の連絡先を書いて、手渡しや、親の方たちに配るといようなことをして行きました。

すると、だんだん「私たちに何かできませんか」などと話しかけられ、親の方たちの気持ちが変わって来るのです。また、話をしていますと、やはりへ祈られているんだな〜というところを感じるようになって行きました。

最初はあまり反応がなかったのですが、一年ほど経ったある日「いつもお手紙有り難うございます」と何人か連絡が来るようになります。そういうところから繋がりができていきました。

一年くらいはかかったのですが、取り組んで行くところから、新たな展開が生まれることを感じさせていただきました。

しかし、あるとき青年の方から「先生はわかっている、僕たちは普段仕事をしています、土日はせっかくの休みだと思っても、教会の行事があつて…、それがわかってない」と言われたのです。

「そうだね」と答えながら話しているうちに、青年たちには「何で教会にお参りしなくちゃいけないんだろうか…」また「今、教会に来るのは、教会に行くことを親が喜んでくれるから」という思いがあることを聞きました。

そういうやり取りがあつてへ自分はどうなのだろうか、何のために金光教の信心をしているのだろうかとかへ自分の目的は何だろうかという疑問が湧いてきたのです。

今までへなんとなく〜としか思っていたことが、具体的に問われるような感じがしてくるのでした。青年の方達から、そういうきっかけをもらうことになりました。

▼祖母の入院

平成十九年、今から七年前の一月二十四日、祖母（坪井教会）が御本

部参拝から、午後八時頃帰ってききました。私は気付かなかったのですが、祖母は、ほんととても疲れていたのでしたのでした。

私は、それがわからずに、それから小林教会に戻って行きました。

翌二十五日、ある信者さんが参拝されると、お広前には誰の気配もなく、祖母は奥で風邪具合が悪いため寝込んでいたのです。そのため、その方が、その晩は泊まって祖母のお世話をして下さいました。

二十六日に熊本で仕事をしていた弟が、たまたま坪井教会に寄って、その状況がわかって、小林教会に連絡してくれたのでした。

そのため、二十六日のうちに母が坪井教会へ行き、二十七日に近くの医院に行き風邪具合で咳き込む病状を診てもらいました。

毎月一日が、小林教会も坪井教会も月例祭なので、母は月末には帰らないといけないので、二十九日から私が交替して坪井教会に行きました。

坪井教会の、二月一日の月例祭は私が仕上げさせていただきました。

その晩、二階で寝ようとしていましたら、祖母が呼んだような気がしましたので、行ってみると、祖母は口を押えてコップに血がたまるほど喀血していました。

私はびっくりして、救急車を呼ぼうとしたのですが、祖母は「大丈夫だから、胸を冷やせば治まるから」と言い、氷で冷やして治まって行きました。

その翌日(二日)、母が駆けつけて来まして、二月五日までいることになりまして、母が祖母を説得して、診察に行きますと「大きな病院で診てもらいましょう」となり、大きな病院での検査中にまた喀血し、病院の先生が付き添われて救急車でと専門の病院に運ばれて入院することになりました。

一月・二月は、教会行事が多いのですが、祖母の入院は、その合間をぬってお繰り合わせを頂きました。それが少しずれていたら身動きが取れませんでした。

その時のことを家族で振り返ってみますと、五つのおかけを頂いていることがわかりました。



「仙寿の里温泉」霧島市牧園町

第一に日程の上に教会行事に差支えないお繰り合わせを頂き、第二に父も母を快く送り出してくれて家族そろって親孝行をさせていただくことができ、第三に具合の悪い時に信者さんが来て下さるなどで体がギリギリのところを持って、坪井教会九十年祭の前年に、命の接ぎ穂を頂くことができ、第四に私が教師のお取り立てを頂いていたことで御結界や月例祭などの御用ができ、第五に祖母が三週間入院している間も教会を閉めることなく御用を続けることができました、ということがあり、御礼申し上げます。ようなことでした。

(次号へ、つづく)

……【解説】……(教会長)……

●中村清一先生は「なんとなく」くらいでは青年会の運営はできないことを知ら

れ、青年会の定例会などを始められる中で、親の方たちが声をかけて下さり、その祈りを感じ、ある青年が「教会に行くのは親が喜ぶから」との声で、青年会運営の上で大切な動機となるもの、参加者の向こう側にある、祈りや願いを具体的に知って、運営に当たらねばならないことを自覚して行かれたようです。

四代金光様の御歌に、

すべて世話になりて
なしめるつとめなり
させてくださるわがつとめなり

親ありて今のわれあり
すべて世話になり来なりゆく
今日のわれなり

と詠われてあります。

青年会の運営でも、どのような御用でも、大切なことは「なんとなく」「楽しいから、面白いから」というところからも「一歩踏み込んで、元にある祈りや願いをはっきりとつかんで、進めて行くこと」が大切だと思います。自分に、自分中心ではなく、世話になるものを中心として、御用を進めて行かれたようです。

元にある、親神様の祈りや親の願いに心の眼を開いて行かれるようすをお話へださっております。

甘木親教会 布教110年記念大祭 参拝

10月26日(日)

午前6時半 出発



私どもがおかげを蒙らせて
いただいている元にある祈り願いを
わからせていただき御礼申して行きましょう。



信心成長の願い

矢野クラ様の頂かれた信心へ

自分中心・自己中心の信心から、
↓ 親神様の御立場に立つた信心に。

親神様を我が願いをかなえる道具に使ってしまいう信心から、
↓ 親神様のご安心されお喜びになられ、
お助かりになられる信心に。

願うおかげのみを信ずる信心から
↓ 親神様のお働き、親神様の深きご神慮を
理解して信ずる信心に。

九月のご霊神様のおまじ

九月

中島時彦之霊神	昭和62・09・02
平島信彦之霊神	昭和20・09・03
前田満之霊神	昭和20・09・03
庄村ミサ之霊神	昭和42・09・05
桐野仲太郎之霊神	昭和10・09・09
汰木スエ之霊神	昭和55・09・12
大重為廣之霊神	昭和24・09・22
西本ハル子之霊神	平成17・09・25
桐野整之霊神	昭和45・09・28

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんさせて
いただき、お礼を申し上げます。教会では、
十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備
しています。

あしあと

加治木教会行事記録

8月

- 1 (金) ●月例祭(報徳)10時半
- 5 (火) 年代別キャンプ出発
- 6 (水) 59日(土)
- 7 (木) 年代別キャンプ(霊地・蒜山)
- 7 (木) 斎掃御用 10時
- 8 (金) ●月例祭(注神堂光 併せて 天神様 聖祭)10時半
- 10 (日) 少年少女全国大会
- 19 (火) 520(水)
- 21 (木) 甘木親教会 婦人教師会
- 21 (木) 斎掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭(天光寺 共励会)13時半
- 24 (日) ●家族朝参拝日 6時
- 28 (木) 連第5回 実行委員会(加治木 教会)
- 31 (日) 斎掃御用 10時

九月六日(土)〜七日(日)

甘木親教会

信徒研修の集い

九月七日(日) 午前10時〜

鹿兒島地方教会連合会 午後三時四十五分

教祖様ご生誕二百年

信奉者集会

場所：加音ホール(第1〜3会議室他)

内容：第①部 映画『おかげは和賀心にあり』鑑賞
第②部 講演・菜原一嘉先生(都城教会長)

※チャリティーバザーが開かれます。

※品物の準備をご協力下さい。(工作室)

※昼食は各自持参、弁当注文は四〇〇円。

九月二十三日(祝) 十時半より

秋季霊祭 奉仕

※祭典後、教話、茶話会。

(霊祭申込用紙、ご記入の上御結界へお届け下さい)

九月二十七日(土)〜二十八日(日)

教祖様ご生誕二百年記念

御本部生神金光大神御大祭 参拝

マイクロバスにて参拝の予定、光風館泊

教会行事

9月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
 - 6 (土) 甘木親教会信徒研修の集い 第①日
 - 7 (日) 連教祖ご生誕200集会
 - 9 (火) 齋掃御用 10時
 - 10 (水) ●生神金光 月例祭 10時半
 - 13 (土) 星原家結婚式 15時 加治木 教会にて
 - 21 (日) 齋掃御用 10時
 - 22 (月) ●月例祭・共励会 併せて
 - 23 (祝) ●秋季霊祭 10時半
 - 27 (土) 御本部 御大祭 出発
 - 28 (日) 御本部 御大祭 参拝 帰着
 - 30 (火) 齋掃御用 10時
- 《未定行事》
※若婦人会・青年会

10月

- 1 (水) ●報徳月例祭 10時半
- 9 (木) 齋掃御用 10時
- 10 (金) ●生神金光 月例祭 10時半
- 19 (日) ●家族朝参拝日
- 21 (火) 齋掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
- 25 (土) 甘木親教会 記念祭第①日
- 26 (日) ●甘木親教会 記念祭第②日 参拝
- 31 (金) 齋掃御用 10時

加治木教会 バンド練習会

〈毎週水曜 午後7時半より〉

九月七日(日)連合会 教祖生誕二百年集会 開会前演奏。

十月二十六日(日)の、甘木親教会 布教百十年記念大祭バンド演奏。

それぞれの行事に、今日おかげを蒙らせていただいている御礼の心を現わさせていただきますましよ。